

《安曇野市》 安曇野市社会福祉協議会ボランティアセンター

〔センターの基本事項〕

所在地	〒399-8205 安曇野市豊科4160-1			
電話 FAX	0263-72-1871	0263-72-9130		
電子メール	sasaeai@azuminoshakyo.or.jp			
HPアドレス	http://azuminoshakyo.jp/			
職員数	正規	1名	嘱託	—
	臨時	—	その他	—
開所日と時間	平日 8:30～17:30 土日祝			
情報誌	ボランティア情報誌（社協だより「あづみん」） 2ヶ月に1回発行			
来所者数	—			



〔センターの運営方針・指針等〕

ボランティアセンターの機能充実・発展のため、ニーズによる各種講座の開催、人材の育成、マッチング等の充実を図る。

〔センターの拠点整備〕

活動場所の提供	—	
フリースペースの設置	—	
資機材等の貸出	○	コピー機 有料
福祉体験器具等の貸出	○	高齢者疑似体験セット、車イス、スロープ、UDグッズ、防災ゲーム 無料
登録グループの専用ポストの設置	—	
情報掲示板・チラシ提供スペースの設置	—	

〔ボランティアセンター運営委員会〕

組織の有無	無	規約	無
名称	—		
委員構成	—		
事業への関わり	—		
工夫点	—		
課題点	—		

〔ボランティア連絡協議会〕

組織の有無	有	規約	有
名称	安曇野市ボランティア連絡協議会		
協議会構成	H18年4月1日設立 旧5町村が合併し安曇野市ボランティア連絡協議会を設立し、旧5町村のボランティア連絡協議会は支部として活動を継続。		
工夫点	各支部の登録ボランティアの全体で構成人数は各支部の総数・86団体・個人10名 支部ごとの活動が活発に行われるよう支援する。ボランティア連絡協議会のメリットを伝える。		
課題点	ボランティア連絡協議会に登録する団体等が減っている。		

〔財源〕

人件費	独自財源	共同募金	委託料・補助金	民間助成金	その他
	—	—	○ 安曇野市補助金	—	—
	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—

事業費	独自財源	共同募金	委託料・補助金	民間助成金	その他
	○ 社協会費	—	○ 安曇野市福祉総務	—	—
	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—

〔事業計画・センター運営等について〕

○事業計画について 毎年度の事業計画について、どのように計画を立案していますか？		担当部署・担当職員間で事業計画を立案している。
○センターにおける中長期計画について 独自の中期計画・アクションプラン等を作成していますか？		名称：地域福祉課中長期目標 内容：福祉的視点・住民主体・協働の場としての地区社協・支部社協の充実に向けての協働・具体的ニーズへの対応、住民の主体的参加を広げるボランティアセンターの機能の充実・発掘
○アドバイザー等について センターの運営や事業実施に関して、アドバイザー等の助言者はいますか？		—
○社協VC以外の中間支援機関について 社協が運営するVCとは別に、他団体が運営する中間支援機関が地域内にありますか？		—
○連携するNPOや関係機関について VCの事業・運営において連携・協働しているNPOや関係機関等がありますか？		
連携・協働先		連携・協働内容
—		—
—		—
—		—
○センターの強みと弱みについて		
<p>《強み》</p> <p>安曇野市全体として6人のボランティアコーディネーターがいるため、同じ思いを共有しながら、事業の実施を図ることができる。また、福祉学習の際にも6人いることにより、同時に違うプログラムを実施することができる。</p> <p>また、支所ごと自分の地域にない活動でも、他地域で実施しているなど情報の共有により、幅広いコーディネートができる。</p>		<p>《弱み》</p> <p>直接に地域と接していないため（支所が地域の最前線）具体的な活動や人が見えにくい。</p> <p>また、特にボランティアが使える部屋やスペースがない。</p>

○VC見取り図

○他市町村社協ボランティアセンターについて センター運営や事業実施に関して、他市町村社協VCに聞いてみたいことや知りたいことなど

ボランティアセンターの重点事業について

事業名	福祉教育推進事業
目的	市内小・中・高校を対象とした福祉・ボランティア学習推進事業。学校と連携を図り学校からの依頼による福祉・ボランティア体験の授業の実施協力。
開催頻度	H21年度は 15/21校 41回
内容	車イス体験・高齢者疑似体験・UD学習・マイ箸づくり・視覚聴覚障害体験・高齢者の理解・障がい者の理解・点字学習・福祉について・デイサービス交流 他
対象者	市内小・中・高校生
企画のポイント 事業成果	できること・すごいところ探しの疑似体験 振り返りによる気づきの共有
参加者の声や その後の動き など	体験した子どもたちはポジティブな感想が多くよせられた。先生方も福祉について新しい発見や子どもたちの気づきに関心していました。今後もこの体験を生かしてもっといろいろな人や地域と繋がっていく体験や学習への展開がなされました。

事業の様子

見えないジャンケン
(視覚障がい理解)



ワークショップ
「誰もが住みやすい街」

